

ウインターカップ2022

令和4年度 第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会 岡山県予選会

日時	2022年11月6日	12:00	男子	決勝
会場名	笠岡総合体育館			Mコート 第Ⅱ試合
● 岡山工業 84		$\left. \begin{array}{l} 22 - 25 \\ 12 - 21 \\ 15 - 20 \\ 35 - 25 \end{array} \right\}$		91 関西 ○

審判名	クルーチーフ	大嶋 将之					1stアンパイア	柏木 琢磨	2ndアンパイア		菅野 嵩大		
選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
中矢 匠紀 (C) *	4	37	1	14	6	1	加納 圭翔 (C)	3	-				
東 龍一	5	-					守安 大地	8	-				
徳田 舜 *	6	4		1	2	3	森本 唯斗	10	-				
守谷 祥吾	7	8		4			渡邊 騎士	11	-				
西原 圭大	8	-					黒川 陸斗	12	3	1			1
金井 宥之祐	9	-					齋藤 晴 *	13	26	1	10	3	3
小原 拓人 *	10	10		5		2	多田 歩	20	11		5	1	2
浅野 健志	11	9		4	1	2	難波 良多	21	-				
池野 恵太郎 *	12	16	4	1	2	4	青井 悠生 *	24	0				
大井 教提 *	13	0				2	渡邊 紘斗	25	7		3	1	4
才田 惺也	14	-					肥塚 怜 *	30	18	3	3	3	3
正富 颯空	15	-					山下 志希	32	-				
筒井 優大	16	-					小田 智己 *	45	21		9	3	
藤村 洋希	17	-					大山 竜生	69	-				
青木 琉海	18	-					相井 誠太 *	88	5	1	1		2
合計		84	5	29	11	14	合計		91	6	31	11	15

戦評

1Q 両校ともマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり岡工は④の3Pやスティールからの速攻で得点を重ね、関西は⑬のインサイドで応戦する。岡工は速い展開の中から④が立て続けに得点し岡工9-2関西となる。流れを変えたい関西は⑮のドライブインや#88の3Pで反撃を試みるが、岡工は④、⑫の個人技で得点し流れを譲らない。残り5分、岡工13-9関西の場面で、関西は⑩から⑬へのゴール下の合わせや⑬の3Pで逆転に成功する。その後は両校とも速攻での得点により一進一退の攻防を演じ、残り1分で岡工22-20関西となる。リードをして2Qを迎えたい関西は⑫の3Pや⑩の果敢なドライブインから獲得したフリースローにより得点し、岡工22-25関西で1Qを終える。

2Q 両チーム引き続きマンツーマンディフェンスでスタート。開始早々岡工⑩がジャンプシュートを沈める。スピードで攻める岡工は④、⑥がドライブで持ち込み点数を重ねる。関西も⑤→⑬のアリウープを決め、開始2分岡工28-29関西とする。関西は⑩のボール運びからドライブへの合わせで得点を立て続けに奪う。岡工も果敢にドライブを仕掛けるが、関西の固いディフェンスに苦しい時間帯が続く。残り6分を前に岡工前半最初のタイムアウト。流れを変えたい岡工だが、関西は⑫→⑤のアリウープ、⑩のレイアップなどで勢いに乗る。苦しい岡工はディフェンスの強度を上げ、⑩が#88のオフenseファウルを誘う。両者一歩も引かず、岡工34-46関西で2Q終了。

3Q 後半開始は関西ボールからスタート。関西⑤がいきなりドライブからバスケットカウントで3点プレイを決め、前半の勢いを継続させる。その後も関西⑬、⑩の連続得点で一気に差を20点に広げる。岡工は点差を縮めようとオールコートマンツーマンを仕掛ける。すると岡工④の鋭いスティールで得点し、関西は勢いを渡すまいとタイムアウトをとる。その後も関西⑩の3P、岡工⑫の3Pで応戦し岡工41-61と関西が大量リードの展開が続く。岡工は状況を打開しようと⑫を投入し、3Pを狙いにかかる。すると、岡工④のジャンプシュート、⑫が3Pを成功させ、点差を一気に詰める。その後も岡工は3Pを中心に、関西はカウンターの速攻を中心に得点を重ね、岡工49-66関西とし、勝負の4Qへ望みをかける。

4Q開始早々岡工のペースに。④のドライブ、⑩のリバウンドからのゴール下のシュートで4連続ポイントをとったところで関西は開始37秒というタイミングでタイムアウトをとる。その後も岡工は猛追し⑫の3Pやドライブなどで得点を一気に縮める。6ポイントを一気に取られ点差が5点差となり関西は3回目のタイムアウトを取らざるを得なくなる。タイムアウト後は両チームとも得点を重ねていき関西はシュート後のリバウンドボールを⑩がタップでねじ込み、さらに④が落ち着いてシュートを決める。対する岡工は積極的に前からプレッシャーをかけ関西のミスを誘いターンオーバーからシュートを放つ。一進一退の攻防が続くこの日最小点差の3点差まで岡工が詰め寄る。その後は関西が岡工を引き離しにかかり残り1分25秒となったところで岡工が1回目のタイムアウトをとる。タイムアウト後、岡工④、⑥のドライブで得点するも関西の流れを止めることはできず岡工84-91関西で試合終了。関西は2年連続2回目のウインターカップ出場を決めた。

